

特別支援教育におけるICT活用②

ICT機器を効果的に活用した実践
／ICT機器を効果的に活用した校務の在り方とデータの活用

山梨大学 教育学部 准教授 稲垣 俊介

この授業のお約束

- 自分から動いてアクティブに学んでください。
受動的だけでなく、能動的に参加してください
- この授業内でのインプットは少なく
皆さんのアウトプットの共有が多い授業内容です。
- 意識してPCとスマホを駆使してみましょう。

自由課題

取得する免許の教科を通して、
「情報活用能力」を育む授業を作成します。
締め切り12月6日です。

- その授業のためのスライドをPowerPoint形式で作成し、提出してください。
- こちらは自由課題ですので、提出をしなくても結構です。
成績に加点をいたします。
- スライドのノート部分には、
そのスライドで話す内容を示してください。

自由課題

自身で作成した「情報モラル」「情報活用能力」を育む授業について紹介する発表してもらいます。
発表日は12月8日、15日、22日です。

- 発表は必須ではありません。発表した人には必ず加点します。
- 発表時間はこれからのアンケート結果で変更します。
- 発表日、発表を希望される人は、みなさんから見て左側一番前から右に向かって座ってください。
- スライドの表紙と最後にお名前と学生番号を大きく見やすいフォントで記してください。



アンケート

発表についてのアンケートをします。

稻垣のWebから、もしくはこちら↓に今すぐアンケートを入力してください。



最終課題

これまで本講座で学んできたことをふり返り、それを踏まえて「あなたがどのような教員になりたいのか」をまとめてください。締切は2026年1月25日です。

タイトルを必ずつけ、章立てを行ってください。分量は3000字以上とします。提出ファイルはWordファイル(.docx)のみ受け付けます。PDF、Google Docs形式、画像などは不可です。

文章は、中学生でも読める読みやすさを心がけてください。ただし内容が軽くなる必要はありません。読み手が誤解しないよう、明確で論理的に書いてください。文体は「です・ます」「だ・である」どちらでも構いません。

根拠のない思い込みではなく、文献や授業で扱った内容を必ず引用してください。文献の引用は一般的な引用ルールに従ってください。授業内容を引用する場合は、以下のように授業名と回数を明示してください。

例：「第8回授業において稻垣は「～～～」と説明した。」

最後に、この授業を通して「どのような教員を目指すのか」を明確に述べてください。

あなたの名前は削除し、今後の後輩たちに見せる参考レポートとして使用しようかと考えています。
理由の如何にかかわらず、遅れての提出は受理しません。

提出開始日（1月19日）から書き始めると間に合わない可能性が高いため、各自で計画的に作業してください。
最終授業（1月19日）には、レポート作成のヒントをお伝えします。

実習A

皆さん（稻垣を含む）の意見を聴いて、
さらに思うことがあれば自由に書いてみてください。



実習A

プログラミングで学習できる能力が国語へ応用できるという意見を聞いてなるほどと思いました。作者の意図を読み解く問題やその時の登場人物の感情を問う問題で、プログラミングで養うことができる問題解決に向けての道筋をつくる能力を活用することで、そのプロット立ての工程の中で答えを見つけられるようになると思いました。

実習A

国語が得意で、文章に答えが書いてあると感じるから教え方に困惑したという意見に共感しました。弟に現代文を教えているときに、「ここに書いてあるよ」以外にどう教えたらいいか分からず困ったことがあるので、議論をしてみるという教え方は参考にしたいと思いました。また、**先生の情報Ⅰは文理問わずみんなに身についてほしいプログラミング能力**だという意見に納得しました。「情報」というワードだけ聞くと、理系っぽい雰囲気を感じて、理系教科が苦手な人は何となく避けてしまう人もいるのではないかと思いますが、私も少し勉強しなければならないと思いました。

実習A

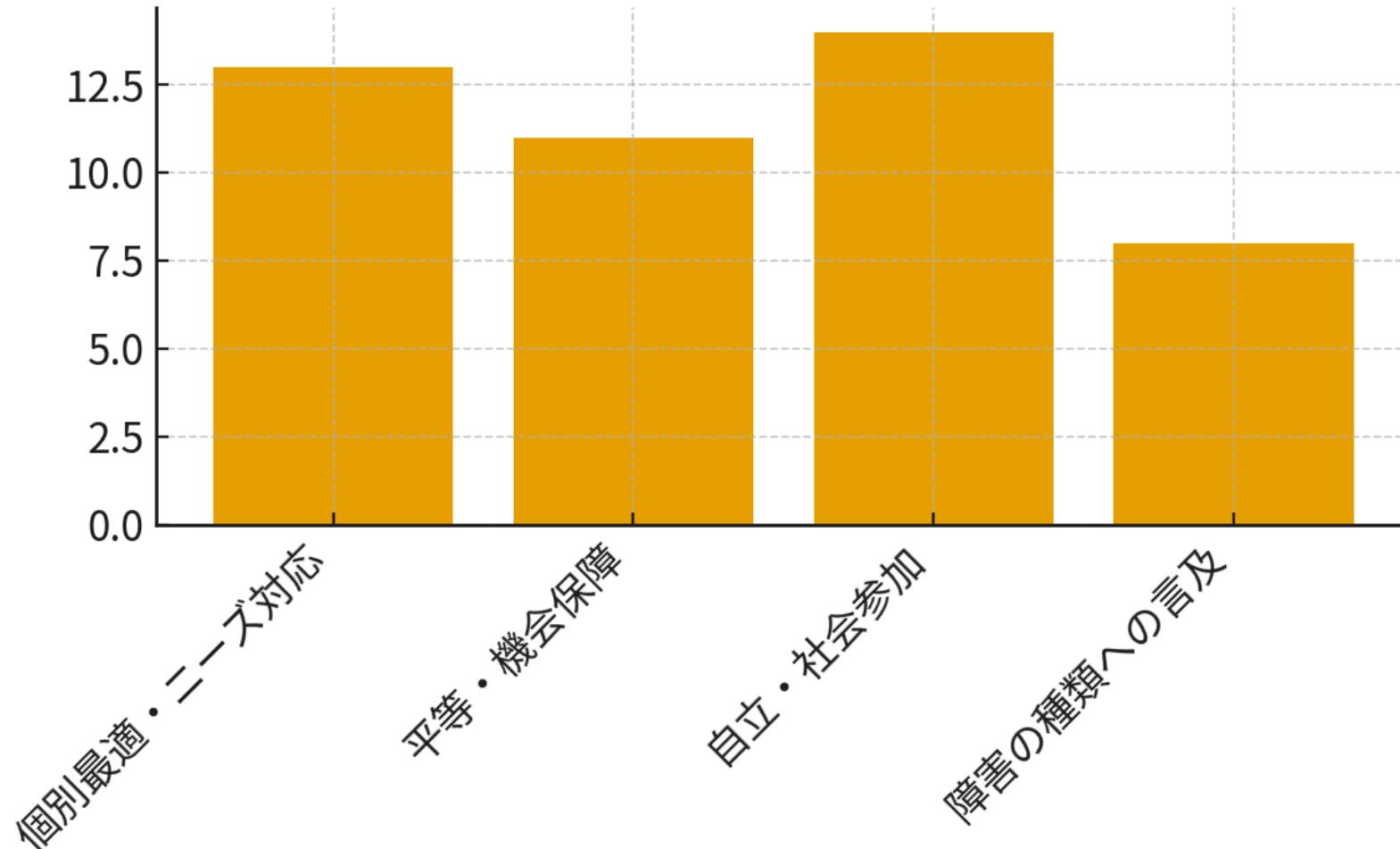
先生より**生徒のほうが情報分野に詳しくなる未来**がそう遠くな
いなと思った。学び続ける姿勢が大事だなと思った。

実習A

最近の小説にはセリフが多いということについて、自分は共通テストにそのような文章を出題する意図として、セリフにある人間味というものをより重要な情報源として考えられるようになった傾向が反映されていると考えた。無機質な地の文に比べ、セリフには人間の温度感があり、ネットでのやりとりが増えるにつれて、人との肌感覚でのコミュニケーションの機会が少なくなることを危惧して、そのような題材が採用されているのではないかと感じた。

実習1 特別支援教育とはどういった教育か

特別支援教育に関する学生回答のテーマ頻度



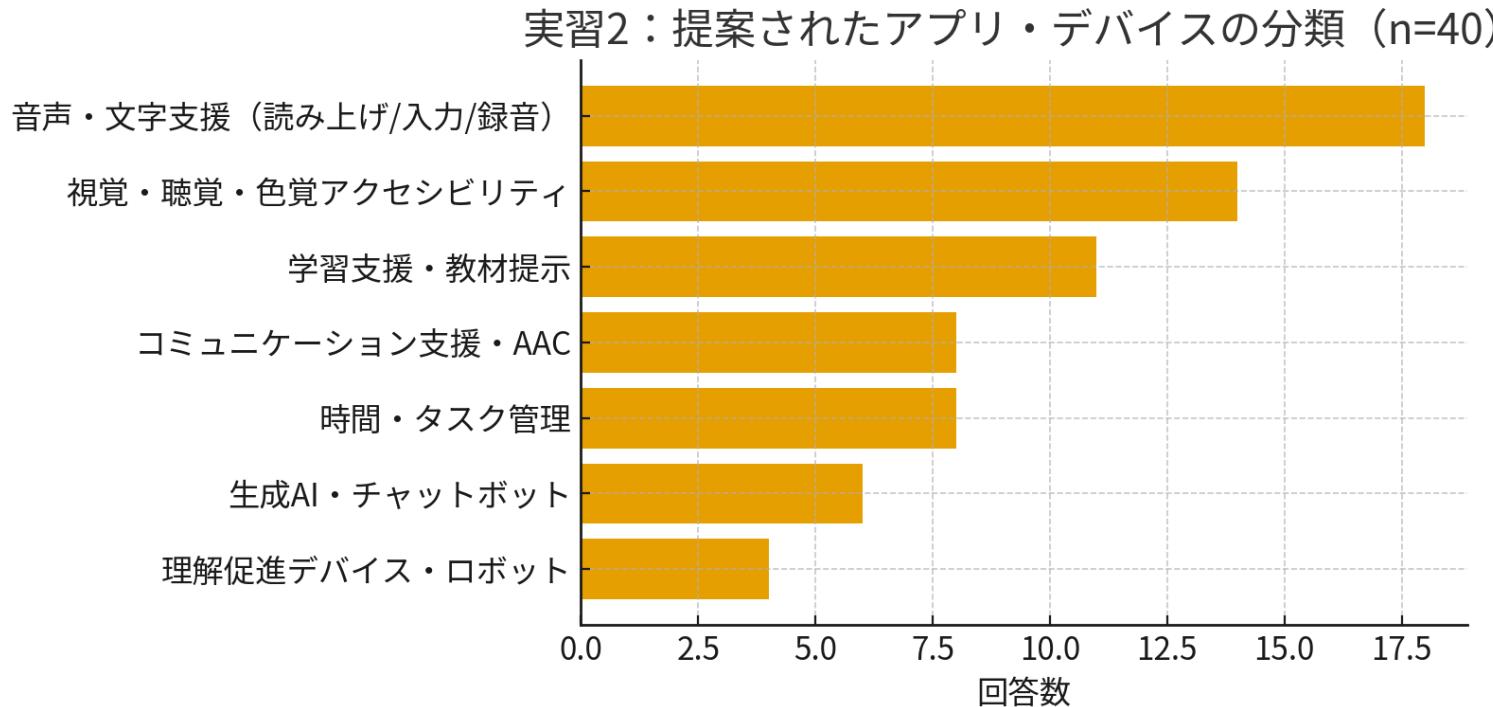
主要4テーマの出現頻度

- 個別最適・ニーズ対応 : 13
- 平等・機会保障 : 11
- 自立・社会参加 : 14
- 障害の種類への言及 : 8

まとめ

- 多くの人が「自立・社会参加」「個別最適」を中心に理解しています。
- 「平等」の視点はあるものの、障害種別の具体的記述は相対的に少なめです。
- 支援の目的（自立と社会参画）と方法（個別最適化）の2軸が学生の主要概念になっています。

実習2 どのようなアプリやデバイスが使えるか？



- 音声・文字支援：18
- 視覚・聴覚・色覚アクセシビリティ：14
- 学習支援・教材提示：11
- 時間・タスク管理：8
- コミュニケーション支援・AAC：8
- 生成AI・チャットボット：6
- 理解促進デバイス・ロボット：4

音声・文字支援：VoiceOver, Siri, Google音声入力, YouTube文字起こし, 録音アプリ, DAISY, サピエ など

視覚・聴覚・色覚アクセシビリティ：画面拡大・ズーム、色覚シミュレータ、Be My Eyes, Youglish など

学習支援・教材提示：クイズアプリ、英単語アプリ、YouTube、地図アプリ、iPadスライド授業 など

生成AI：ChatGPT／Copilotによる作文支援・平易化 など

この講義の感想や学んだこと

小学校から私立に行ってしまったからか、特別支援学級のようなもののがなく、**学習活動において問題を抱える生徒に対しての特別な措置は私の記憶ではとられていませんでした。おそらくそういった生徒たちは転校せざるを得なかつたのかな**と思います。介護等体験で特別支援学校には行きましたが、依然として特別支援教育に対する理解度は極めて低いと感じたので、これからもっと学んでいきたいと思いました。

普通学級の中に支援が必要な子どもが通うという状況について、**聾の形**という映画を思い出しました。たしかにインクルーシブ教育は大事ですが、すべての子が同じ環境で学ぶことが最善とは限らないように思います。子どもの成長には自己有用感や成功体験が重要になってくるので、**その子が最大限自分自身を成長させられるような安心できる環境に身を置くことが大事だ**と思います。

受験での配慮についてですが、**ICTを使ってうまく対応できたりするのかな**？と思います。受験と同じで選挙の投票もICTができるようになればより多くの人が参加できるように思うのですが、やはりまだ実施されていないということはそういった整備はまだ整っていないのでしょうか？

この講義の感想や学んだこと

特別支援を受けることが恥ずかしいと考える親がいることを聞いたことがある。特別支援について、私自身小学校とき盲学校から月に1度くる子がいたため身体的特徴のある子ぐらいの感覚で普通の友達と同じように接していた。そのため、子ども自身は特別支援という言葉に対しての偏見は少ないのでないかと思った。子どもにできるサポートは誰にでも平等にするべきだと考えるため、その一部としての特別支援を考えられる風潮が大切になると思う。

特別支援はスタートラインをそろえるツールであるとするべきだと考える。共通テストでも、そこにたどり着くまでの段階はみんな同じはずなので、ズルと考えるのは違うと思う。しかし、ICTを使うことで同じにできたらより平等なのかもしないとも思う。

この講義の感想や学んだこと

私の両親が特別支援学校で教員として勤務していたが、自宅で教材作成の内職をしていた姿がすごく印象に残っている。今回の授業で取り扱ったような大きいレジュメづくりやルビ振りはもちろん、工作のような指先の運動などの教材をつくっていた。かなり疲弊した様子だったので、ICT機器を活用した学習の普及していくことは生徒の理解度の向上や学習への前向きさにつながることはもちろん、現場の教員の負担削減にもつながると思った。これを活用していくためには教員側がICT教育についての情報に敏感になっていかなければいけないし、それを教員同士で共有することが必要になるだろう。

この講義の感想や学んだこと

特別支援教育の評価の仕方はこれからも課題であり続けると思う。

形式的平等と実質的平等の比較の図でよく出てくる踏み台のように視覚化出来るなら悩むことはないが、器具機械や時間延長等の措置がどの程度影響を及ぼすかは視覚化できないし、個々人によっても変化するため難しい。

ただ、**特別支援関係なしにも成績を取りやすい先生取りづらい先生**というのによくあることであるように、成績評価一般に言えることなので、教育全体を見渡しながら少しずつすり合わせていくのがいいのだと思う。

この講義の感想や学んだこと

病気や障がいの定義が変わり多様になっていく中で、普通教育で過ごす中で困ることがあるが上手く支援を受けれずついていけない子なども適切な教育を受けるチャンスが得られるようになったと思った。そんな中で、ICTを利用して簡単にそして的確な支援を受けることは平等な教育に近づけているように感じた。しかし、多くの種類の困難さが可視化され、ぱっと見ではわからない困難を抱えた子が増えた中で、評価の点で普通の子とのハンデの具合がむずかしいと思った。共通テストの例のように、全ての子に平等にするためにはどこまでがでけてどこまでができるかがまだ曖昧に感じた。

講義のカリキュラム

1. 特別支援教育とは
2. ICTを用いた特別支援教育
3. 特別支援教育に対する考え方

3.特別支援教育に対する考え方

特別支援教育におけるICT活用の視点

特別支援教育におけるICT活用の視点

視点1

教科指導の効果を高めたり、
情報活用能力の育成を図ったり
するために、ICTを活用する視点

- 教科等又は教科等横断的な視点に立った資質・能力であり、障害の有無や学校種を超えた共通の視点。
- 各教科等の授業において、他の児童生徒と同様に実施。

視点2

障害による学習上又は生活上の
困難さを改善・克服するために、
ICTを活用する視点

- 自立活動の視点であり、特別な支援
が必要な児童生徒に特化した視点。

各教科及び自立活動の授業において、
個々の実態等に応じて実施。

✓ 新特別支援学校学習指導要領では

各教科の指導計画の作成に当たっての配慮事項として、各障害種ごとに
コンピュータ等のICTの活用に関する規定を示し、指導方法の工夫を行
うことや、指導の効果を高めることを求めている。



大学入試センターの配慮



独立行政法人
大学入試センター
National Center for University
Entrance Examinations

センターについて

大学入学共通テスト

研究開発活動

情報公開

受験者・保護者の方 | 高校関係者の方 | 大学関係者の方 | 研究者の方 | 調達・入札関係の方

A A A
FONT SIZE

COLOR
COLOR

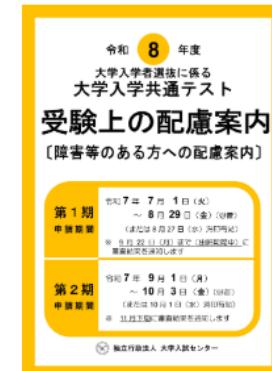
VOICE
VOICE

Q 検索
メニュー

トップ > 大学入学共通テスト > 試験情報 > 令和8年度試験 > 令和8年度受験上の配慮案内 (PDF形式)

印 全画面印刷
印 本文印刷

令和8年度受験上の配慮案内 (PDF形式)



受験上の配慮の申請は、郵送でのみ受け付けます。

テストの配慮

入試や考查試験において、
どこまでなら「ICT機器の持ち込み」をしても良いと考え
ますか？

これは今は、記述しません。
思うところがあれば、最後のリフレクションに書いてくださいね。
隣の人と少し話してみてください。

私たち教員もICTに支えられている 授業実践／校務

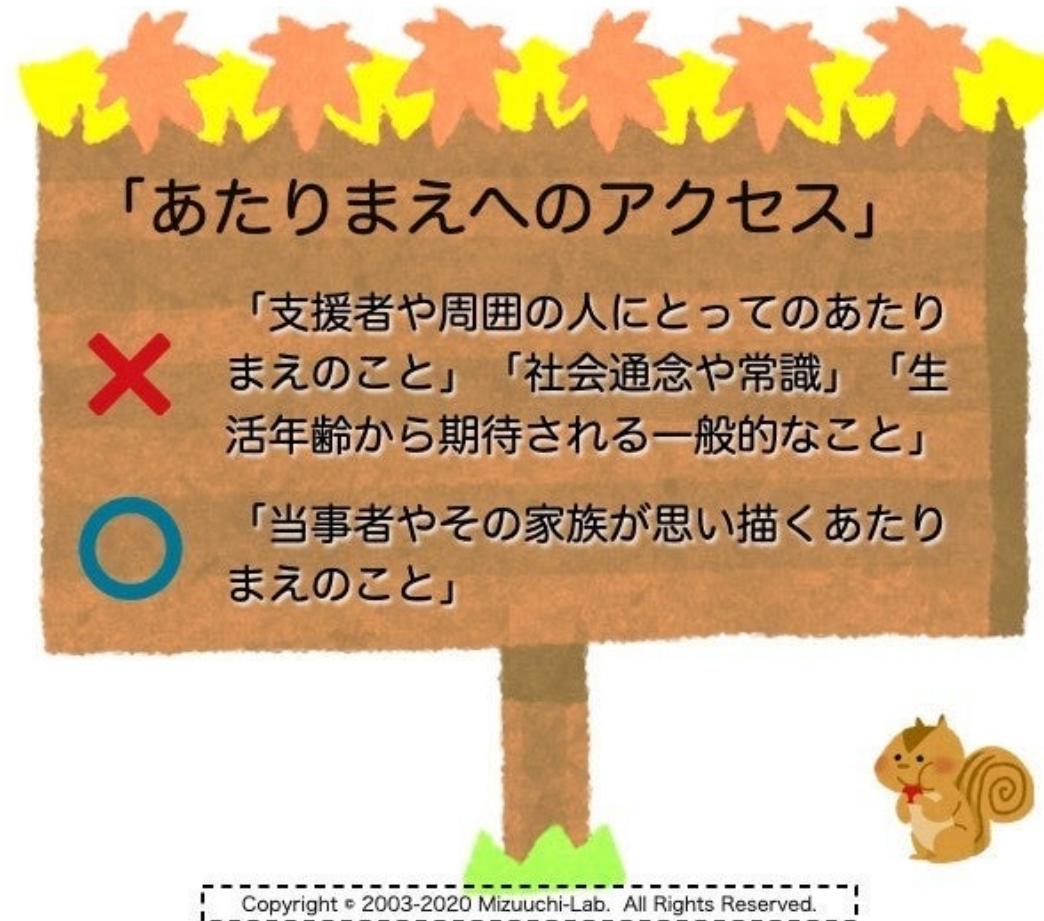


あたりまえへのアクセスという考え方

発達障害・知的障害のある子どもから成人とその家族が、さまざまなソーシャルサポートやICTを用いながら、すでにできていることはさらに高め、やりたいことはとことん支援付きで可能にする、そのための方途を具体的、実証的に探求しています。めざすのは「あたりまえへのアクセス」であり、その先にあるのはQOLの向上です。

出典：知的・発達障害児・者とその家族の想う「あたりまえへのアクセス」のために（島根大学・水内豊和）

あたりまえへのアクセスという考え方



出典：知的・発達障害児・者とその家族の想う「あたりまえへのアクセス」のために（島根大学・水内豊和）

あたりまえへのアクセスという考え方



出典：知的・発達障害児・者とその家族の想う「あたりまえへのアクセス」のために（島根大学・水内豊和）

あたりまえへのアクセスという考え方



出典：知的・発達障害児・者とその家族の想う「あたりまえへのアクセス」のために（島根大学・水内豊和）

あたりまえへのアクセスという考え方



出典：知的・発達障害児・者とその家族の想う「あたりまえへのアクセス」のために（島根大学・水内豊和）

実習1

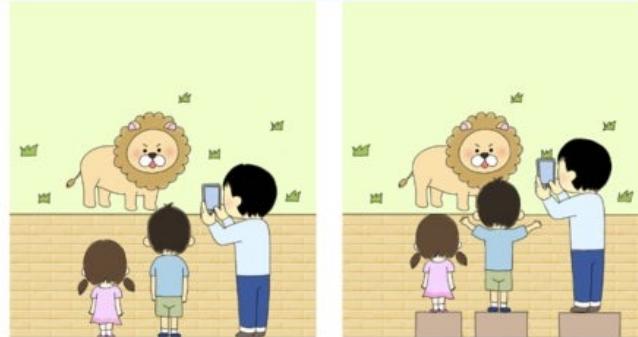
今の話、「あたりまえのアクセス」についてあなたはどのように感じましたか？あなたの素直な感想や意見を聞かせてください。



あたりまえへのアクセスという考え方

まとめ 個別最適化された学び・協働的な学びを保障するために
水内豊和 (富山大学人間発達科学部)

本人の思う
「あたりまえへのアクセス」が
できない状況



無理解な社会

あまり意味のない
「公平」「平等」

本人の思う
「あたりまえへのアクセス」が
できる状況



合理的配慮

UD

イラスト: いとうみわ

基礎的環境整備
+合理的配慮

- UD、基礎的環境整備、合理的配慮、個に応じた配慮・支援について理解する
- 「障害」は「社会の中」にあるという視点を持つ
- 支援の原則は、「内容」を下げるのではなく「方法」で支えること！

「あたりまえへのアクセス」とは
こちらのnoteをご覧ください



Copyright © 2003-2021 Mizuuchi-Lab.

出典：知的・発達障害児・者とその家族の想う「あたりまえへのアクセス」のために（島根大学・水内豊和）

実習2

実習1の素直な感想を踏まえて、あなたはどのように特別支援教育が行われていくことが理想であると思いますか。また、その理想のために自分ができることは何だと考えますか。



まとめ

特別支援教育の実施にあたり、ICT技術が役に立つことは間違いなさそうです。

私の役割はICTが教育に導入されることへの理解を深めることであると思い、ここに立っています。

それがゆくゆくは「特別支援教育におけるICT活用」へとつながることであると考えています。

あなたは、どのように特別支援教育とかかわっていきますか？

次回に向けて

- 接続のテストもできたらしてみましょう。
- 次回の講義は、リフレクションの紹介の後、発表に入れます。
- 発表したい人は前に来てください。
PC以外では発表できません。
- HDMIでの接続ができるように準備をしてください。